

春秋彩

Shunjusai

vol.57

熊本県立大学広報誌

2022
Autumn



CONTENTS

特集 熊本県立大学創立75周年にあたって……	2
研究活動紹介	7
大学の動き	8
後援会だより	9
活き活き元気種	10
おすすめの一冊・未来基金の報告	11
熊本県立大学アーカイブズ	12

春秋彩とは

万葉集の額田王の春秋を論じた歌の題詞「春山の万花の艶と秋山の千葉の彩」から採ったもの。「春秋」には年月の意味もあり、「春秋に富む」若者を彩る学園の四季を表している。

75 これからも 変化し続ける大学へ — Anniversary

学長インタビュー

熊本県立大学が目指す未来像

熊本県立大学学長 堤 裕昭



専門は海洋生態学、沿岸環境科学。環境共生学部長、地域連携・研究推進センター長、副学長を経て令和4年4月に学長就任。有明海でのフィールドワークを長年続け、「現場百見」が持論。



地域に貢献し、世界に伸びていく人材を育てる

■ 少し先の未来を見すえた教育や研究が大事

— 創立75周年の節目の年に学長に就任されましたが、率直な感想と抱負を。

学長 本学に着任して36年が経ち、前身の熊本女子大学のことを知る数少ない教員になりました。当時は対外的にあまり目立った大学ではなかったのですが、学生のレベルの高さに驚きました。今も学生たちは勉学に熱心に取り組んでいるという印象を持っています。熊本女子大学の時から、ここは県に貢献してこそ評価される大学だと先輩教員の方々から事ある毎に訓示を受けていましたが、平成6年に共学化されて以降、「地域に貢献する大学を目指す」という方針が強く打ち出され、地域社会に開かれた大学として発展してきました。

ただ、私が在任してきた間にも、世の中が急激に変ってきたことを痛感しています。これまでに築き上げてきた伝統を守るだけでなく、時代にマッチした大学に常に変革する必要があります。卒業して社会で役に立つ人材を育てなければなりません。そのためには、少し先の近未来を見すえて、教育・研究を進めていかなければならないと考えます。

— 目標を達成するために取り組まれていることは何ですか？

学長 「地域に生き、世界に伸びる」と大学のスローガンにあるように、コンセプトは明確です。その時々に変化する地域課題をとらえて、必要な基礎的分野を学習し、卒業後にその課題の解決に向かうことができる専門知識や技能を持った人材を育てることに取り組んでいます。実際、卒業生の約6割は地元で就職して、県内の各地域社会の維持・発展に貢献しています。

このことを目指した教育プログラムの一つに、1年生の時に全員必修で「もやいすとジュニア育成」という地域課題に取り組む科目があります。もやい綱をつないで、力を合わせて課題を乗り越えようという造語です。地域と防災の2つのテーマに分かれ、5~6人のグループで課題に取り組み、全員で研究発表します。文部科学省の補助事業に採択された最初の5年間は、その予算で担当教員を雇い、常勤教員と協力して実施しました。補助事業が終了した後は常勤教員が持ち回りで担当してきましたが、本学の重要な科目の一つとして位置づけられるので、来年度からは、専任の教員を置いて、さらに授業内容を強化していく予定です。

■ 地域問題を学ぶことは、世界につながっている

— 国際交流に特に力を入れていきたいと考えておられると伺っていますが。

学長 地域学を勉強することは、狭い地域に限定するものではありません。熊本だけ、日本だけで成り立っているわけでもありません。インターネットが発達した現在、熊本に居ながら、外国とやり取りすることは日常的になりました。「世界に伸びる」ためには、世界共通語の英語の修得が必須です。ただ、卒業時のアンケートでも英語教育への満足度が高くありません。授業だけでは十分な力は身につかないので、この点では、学生にも努力を求めたい。私も語学修得に苦労した経験があるのでわかりますが、時間を掛けて努力しないと身につけません。大学にはeラーニングシステムがあります。外国人に会わなくてもコンピューターが英語を教えてください。全学生が24時間、どこでも学べるのに、まだ生かし切れていない。

英語を学ぶ動機付けが必要です。「もやいすとグローバル育成プログラム」では、TOEIC®が550点以上の学生たちに英語の特別授業を行い、今年カンボジアに派遣しました。また大学院では、JICA(国際協力機構)と連携して国際教育枠を設け、海外青年協力隊の帰国者を受け入れるほか、院生を協力隊員として派遣する制度も創設しました。

— 在学生や県立大を目指す高校生へのメッセージを。

学長 熊本の課題を明確にし、解決していく人材を育てたい。「地域」を入り口として勉強し、そこから普遍的なものを身に付けてほしいと思います。私は有明海の環境問題を研究してきましたが、それは地球レベルの環境の問題にもつながっています。環境問題は特定の地域で起きるのですが、突き詰めていくと別の地域でも起きます。有明海の赤潮や富栄養化は、いまや世界中で問題となっています。「地域に生き、世界に伸びる」ということにも通じると思います。そのための教育に必要な施設や人材は、県立大学には揃っています。学生の皆さん、それを貪欲に活かしてくれることを望みます。高校生の皆さん、「地域に生き、世界に伸びる」について学ぶために、本学の門を叩いてくれることを願っています。

History

戦後間もない1947(昭和22)年の創立以来、
75年に及ぶ熊本県立大学の歩みを振り返ります。



1940~1960年代

- 1947(昭和22)年4月
熊本県立女子専門学校創立(熊本城内)
- 1949(昭和24)年4月
熊本女子大学開学 学芸学部/文学科、生活学科
- 1950(昭和25)年6月
熊本市大江渡鹿に校舎移転(現熊本県立劇場敷地)
- 1953(昭和28)年4月
学部学科名称変更 文家政学部/文学科(国文学専攻、英文学専攻)、家政学科
- 1960(昭和35)年4月
学科分割改組 文学科→英文学科、国文学科
- 1963(昭和38)年4月
学科分割改組 家政学科→家政学科、食物学科

1980~1990年代

- 1980(昭和55)年4月
現在地に新キャンパス建設 学部を文学部、生活科学部の2学部制とし、
合わせて学科改組 文学部/国文学科、英文学科 生活科学部/
食物栄養学科、生活環境学科、生活経営学科
- 1991(平成3)年4月
外国語教育センター設置
- 1993(平成5)年4月
大学院設置 文学研究科/日本語日本文学専攻(修士課程)、
英語英米文学専攻(修士課程)
- 1994(平成6)年4月
大学名称を「熊本県立大学」に変更、全学的に男女共学に移行
学部増設 総合管理学部/総合管理学科 文学部学科名称変更
国文学科→日本語日本文学科、英文学科→英語英米文学科
- 1997(平成9)年
大学歌「宙(そら)へ」制定(開学50周年記念事業)
- 1998(平成10)年4月
大学院研究科増設 アドミニストレーション研究科/
アドミニストレーション専攻(修士課程)
- 1999(平成11)年4月
生活科学部を環境共生学部に変更 環境共生学部/環境共同学科/
生態・環境資源学専攻、居住環境学専攻、食・健康環境学専攻

2000年代

- 2000(平成12)年4月
大学院博士課程設置 アドミニストレーション研究科/
アドミニストレーション専攻(博士課程)
- 2003(平成15)年4月
大学院研究科増設 環境共生学研究科/環境共生学専攻(修士課程)

- 2005(平成17)年4月
大学院博士課程増設 環境共生学研究科/環境共生学専攻(博士課程)
- 2006(平成18)年4月
公立大学法人熊本県立大学へ移行 附属図書館及び外国語教育センター等を改組し、
学術情報メディアセンター設置(図書館、語学教育部門、情報教育部門)、
地域連携センター設置、包括協定制度整備
- 2008(平成20)年4月
大学院博士課程増設 文学研究科/日本語日本文学専攻(博士課程)
環境共生学部学科改組 環境共生学→環境資源学、居住環境学、食健康科学科
- 2009(平成21)年4月
学生支援組織改組 キャリアセンター設置、保健センター設置

2010年代

- 2010(平成22)年4月
大学院博士課程増設 文学研究科/英語英米文学専攻(博士課程)
- 2011(平成23)年10月
CPD(継続的専門職能開発)センター開設
- 2013(平成25)年4月
地域連携センターを地域連携・研究推進センターに改組
- 2014(平成26)年4月
全学教育推進センター設置
- 2016(平成28)年4月
地域活力創生センター設置
- 2019(平成31)年 4月
環境共生学部 学科改組 環境共生学/環境資源学専攻
居住環境学専攻 食・健康環境学専攻
環境共生学部に食育推進室を設置
学術情報メディアセンターに研究支援部門と情報基盤管理室を設置
地域連携・研究推進センターを地域連携政策センターに改組
監査室設置

2020年代

- 2020(令和2)年 4月
国際教育交流センターを設置し、語学教育部門を
学術情報メディアセンターから移管
全学教育推進センターから教学IR室を移管し、IR室を設置
- 2021(令和3)年 4月
全学教育推進センターを共通教育センターに改組
センター内に緑の流域治水研究室設置
- 2022(令和4)年 4月
学術情報メディアセンターと地域連携政策センターを改組し、
地域・研究連携センターを設置
デジタルイノベーション推進センターを設置



「地域に生き、世界に伸びる」を実践！

キャンパスの中の「国際」

世界とつながる熊本県立大学

熊本県立大学では、留学生たちも充実した学生生活を送っています

昨年10月から1年間、交換留学の協定校であるアメリカ合衆国モンタナ州立大学ピリングス校より2名の学生が留学。新型コロナウイルス感染症の拡大により日本に入国できず、オンラインにより留学をスタートしました。4月に入国し、滞在は約5カ月でしたが、熊本市の月出小学校でモンタナ州の紹介をするなど地域住民とも交流を深めました。(今年は後期から1年間、3名の交換留学生を同校から受け入れています)

■ 学生 INTERVIEW



Willow Peterson
ウィロー・ピーターソン

**人が優しくて親切
熊本を故郷のように感じた**

熊本の生活の中で、特に印象深いのは人。大学の中だけではなく、学外で出会う人たちも本当に優しくて親切でした。熊本はいろんな面で私の故郷のモンタナと共通点があります。美しい自然があることも似ていますが、文化や習慣が違うにも関わらず、人もよく似ている。そのおかげで、私は熊本を自分の故郷のように感じるようになりました。

私はモンタナの大学で政治学を専攻しています。熊本で過ごし、熊本をはじめ日本人たちがどう暮らしているか、また、日本の政策も非常に興味深いと感じました。学位を取得したら政策評論家やライターなど、政策に関わる仕事に就くことが夢です。住み慣れた場所を離れて暮らすことにはリスクもありますが、リスクを冒してこそすばらしい経験ができるもの。留学は私にとって、人間としての成長につながったと思います。



Danielle Cutler
ダニエル・カトラー

**12歳で初来日以来、
日本が大好きに**

小さい頃から両親と海外旅行をしていて、初めて日本に来たのは12歳の時。日本の文化、食べ物、景色、言葉や文字も大好きになりました。大学に進み、熊本県立大学が日本にある交換留学協定校で、留学プログラムがあることを知りました。私が今やるべきことは日本へもう一度行き、そこで勉強することだと思い留学を決意しました。

熊本では毎日新しい出会いがあり、新しい場所に行き、新しい言葉を知り、そのすべてを楽しみました。熊本の人はとても親しみやすく、誠実。嘘をつかれているとか、何かを隠されているなど感じたことは一度もありません。もし海外留学を考えている人がいたら、「勇気を出して」と伝えたい。あなたたちのように誠実な人たちは、どんな場所に行っても受け入れてもらえるし、きっと助けてもらえるはず。世界を広げる力が自分にはあると信じて、がんばってほしいです。



7月13日、受賞の報告として木村副知事を表敬訪問しました
(前列右から2人目が中村さん、左から2人目が木村副知事)

「地域に生き、世界に伸びる」を实践 II

「世界」に伸びる県大生

Apple主催のコンテストで入賞！テーマは「日本の色」

米国Apple社が毎年開催している、世界のソフトウェア技術者や開発者を対象にした「WorldWide Developers Conference」(WWDC)では、世界中の学生がコーディングの力を競うコンテスト「Swift Student Challenge」が開催されています。2022年のコンテストでは、県大生の中村優太さんが、入賞者40カ国350人の学生の一人となる栄誉に輝きました。

■ INTERVIEW



総合管理学部4年(飯村研究室所属)
中村 優太

遊び感覚でも認めてくれるのがApple社 デジタルで日本文化を広める「WA-color」

受賞したアプリは、「WA-color」という、表示された和色の名前と色をマッチングさせる、日本の「色」がテーマのゲームです。以前から、昭和歌謡の歌詞に出てくる「からし色」など、おもしろい色の名前に興味がありました。今回開発したアプリは、色に対して独特な名前が付けられているという日本の言語的文化を、世界の人に知ってもらいたいという目的もありました。

実は開発に3日しかかけられず大変でした。でも、「まずは挑戦」という気持ちで提出しました。受賞した時はもちろん驚きました

が、遊び感覚でもAppleは認めてくれるんだな、と感じてうれしかったです。アプリ開発は一般的に、コンピュータを使っていますが、今回は、iPadでのみ開発するという条件があります。プロが使用するような環境にある高度な機能は使えませんが、逆に、iPadだけですべてができる。つまり、小学生でもアプリ開発からリリースまでできるのは、革命的です。

アプリ開発は、プログラミングさえできればいいわけではありません。開発のスタートはやはり、自分の好きなものやコト、そして社会課題の解決がテーマになることが大事。そこに、自分がかわいいとか、かっこいいと思うものを盛り込んで、オリジナリティを持たせられるのが魅力です。卒業後は、就職先でもアプリ開発を続ける予定です。後輩たちにも今後、こんなコンテストにどんどんチャレンジしてほしいと思います。

■ 指導の飯村伊智郎教授のコメント

就職活動やほかのプロジェクトでも忙しい中、中村君はよく頑張りました。若者に、世界とつながるチャンスを与えてくれているのがApple社のこのチャレンジ。受賞を足掛かりに、自信をもって、さらに高いハードルに挑戦してほしいです。

文芸としての地誌を読む

日本近世文学を専攻し、中でも、ある地域・土地に関する地勢や歴史・文化を記述した、地誌という書物群を主たる研究対象としています。

地誌にはその地域の「名所」が集められています。名所は、かつて「なごころ」あるいは「歌枕」などと呼ばれ、古歌に繰り返し詠み込まれてきた、特定のイメージを喚起する地名を淵源とし、日本固有のポエジーである和歌に密接に関連しています。つまり、名所の集成としての地誌も、すぐれて文学的な存在なのです。

地誌と俳諧

江戸時代になって和歌の後継文芸とも言うべき俳諧が隆盛を迎えると、名所の探索や地誌編纂も俳人が重要な担い手になります。

著名な井原西鶴も俳諧師ですけれども、彼にも『一目玉鉾』(元禄2年<1689>刊)という日本全国を対象とした地誌作品があります。絵巻のように連続した俯瞰名所絵を有しているのですが、私はこれがおよそ60~70年後の『東国名勝志』(宝暦12年<1762>刊)という地誌・名所絵本に利用されていることを発見しました。ただ、その挿絵はより写実性が高まり、『東国名勝志』と同時期に成立した「名所図会」と称する、詳細な挿絵を特色とする一連の地誌に近付いていました。この事実は『玉鉾』の先進性を物語るとともに、『玉鉾』が近世地誌の到達点たる名所図会へと展開してゆく道筋を示しているわけです。

研究活動紹介

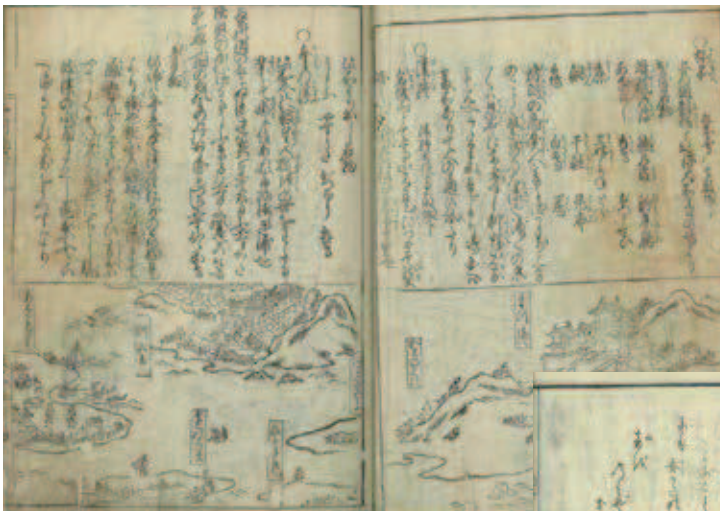
文学部日本語日本文学科
准教授 真島望

そして、俳諧と地誌という観点で、特に注目してきたのが菊岡沾涼という人物です。沾涼は『江戸砂子』(享保17年<1732>刊)という江戸地誌史の画期となる作品をものしている重要人物ですけれども、俳諧研究では見過ごされてきたため、基本的な伝記事項の解明や、その作品の文学史的位置付けなどを行ってきました。新興都市である江戸は、伝統的歌枕に乏しいからこそ、近世の新しい「名所」が形成され蓄積されてゆく過程をつぶさに観察することができ、新しい時代の「名所」の性質はいかなるものか、さらには「江戸文化」とは何かというような問題を探ることができるのです。江戸の発展と歴史の蓄積を体現する重要作『江戸砂子』の特色を具体的に明らかにするのが目下の課題です。

これまで江戸地誌を中心に研究してきましたが、今後はその成果を踏まえつつ、熊本や九州の地誌との比較を通して、東国・九州双方の歴史意識や歌枕に対する感覚の共通点や相違点を分析してゆきたいと考えています。

プロフィール

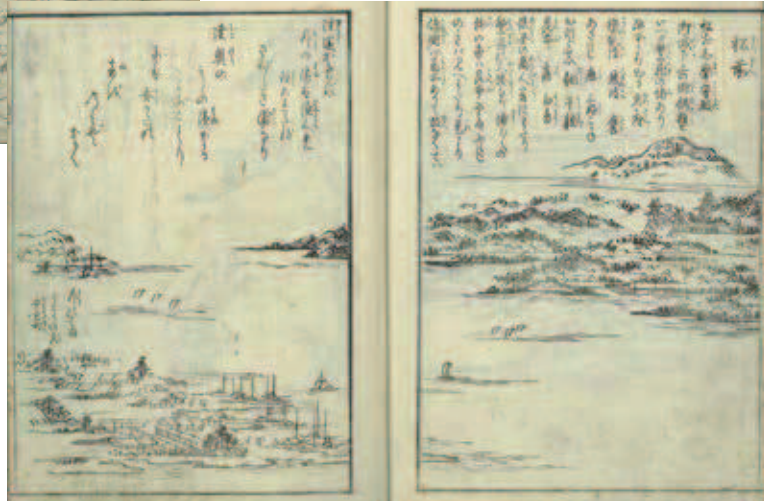
成城大学大学院文学研究科国文学専攻博士課程後期単位取得退学。博士(文学)



『一目玉鉾』巻1(個人蔵) 現北海道の松前を描く



真島 望 准教授



『東国名勝志』巻1(個人蔵) 同地域を描く(『玉鉾』利用は明らか)

大学の動き

環境共生学部の松添教授の研究課題が農林水産省 「スマート農業技術の開発・実証・実装プロジェクト」に採択されました!

環境共生学部の松添直隆教授は、スマート農業技術を活用した中山間地における農業・農村振興の研究を行っています。今回、研究課題「栗園における労働軽減のための収穫・運搬ロボットの開発」が農林水産省「スマート農業技術の開発・実証・実装プロジェクト」に採択されました。

研究目的は、栗園における収穫・運搬の無人化・軽労化、労働時間の削減、並びに農業機械の電気化の推進を目的とした完全自律型の収穫・運搬ロボットの開発です。松添教授が研究代表となり、熊本高等専門学校、県内企業や生産団体等との共同で令和4年度～6年度に実施します。



水銀留学生6期生が蒲島知事を表敬訪問しました

9月1日、水銀研究留学生第6期生の学位(後期博士課程)取得、卒業にあわせて、これまでの研究成果報告のため、学長、指導教授及び水銀留学生在生とともに、熊本県の蒲島郁夫知事を表敬訪問しました。

ウィリー・チャーヤ・ヌグラハ氏(インドネシア出身)は「水銀管理手法に関する研究」、シルベスタ・アツダイ・アルヒン氏(ガーナ出身)は「ガーナにおける水銀の食品汚染と健康影響に関する研究」を発表しました。



「大人のオープンキャンパス」を開催しました

本学では、地域貢献の柱の一つとして、全国でも先駆けて授業公開講座を開始し、専用施設(CPDホール)を整備するなど生涯学習に取り組んできました。

本学の生涯学習のPR、受講のきっかけづくりのため、8月～9月に無料公開講座「大人のオープンキャンパス」を開催。堤学長をはじめ4人の先生方によるオンライン講座とともに、感染症対策を施した上で対面での講義も実施しました。91人の方が受講され、学びの楽しさを実感されました。

大人のオープンキャンパス

熊本県立大学 オンライン無料公開講座
受講生募集! 申込締切 7月22日

講師陣

- 1 学長 堤 隆典 氏
- 2 学長 堤 隆典 氏
- 3 学長 堤 隆典 氏
- 4 学長 堤 隆典 氏

開催期間: 2022年8月10日～9月30日
受講料: 200名(先着順) | 受講料: 無料

熊本県立大学 総務・研究課センター
TEL: 096-321-4812 FAX: 096-321-4811
https://univ.kyushu-u.ac.jp

県大生SDGs体験研修in山都町！



8月22日～24日の3日間、包括協定を締結している山都町でSDGsの体験研修会が開催され、学生5人が参加。同町は2021年に国の「SDGs 未来都市」に選定され、有機農業を中心としたSDGsに町全体で取り組んでいます。

学生は、有機農業の体験や自分たちで収穫した農産物を使った夕食作り、更には町の魅力をSNSで発信する課題に挑戦。最終日には町長と意見交換会を行い、持続可能な社会の実現を目指す先進地のまちづくりを学び、山都町のPRにも貢献しました。

山都町ホームページ
「SDGs未来都市」特設サイト



オンライン特別講座

「球磨川流域圏バーチャルキャンパス」好評配信中！

今年度は、講座数を4講座から17講座へと大幅に増やし、学内外の14人の講師陣が、流域治水、流域の環境や生態系、文化・歴史、災害からの復興について講義する充実の内容となりました。9月1日から毎週1講座ずつオンデマンドで配信中。2023年2月末までいつでも何度でも視聴いただけます。

好評につき11月末まで受講生の二次募集を行っています。ご興味のある方は、QRコードを読み取り、WEBサイト「地域ラブラトリー」からお申込みください。



WEBサイト「地域ラブラトリー」



<https://puk-loveratory.com/news/5969/>

就職活動をはじめ、多彩に学生をサポート

後援会だより

講座受講料に対する助成金を増額！！

後援会では、資格取得及び就職支援を目的とする講座を受講した場合、以下の要件を満たすものに対して受講料の額に応じて助成を行っています。

今年度から助成金額を増額しましたので是非ご活用ください。ただし、助成対象外の講座がありますので、詳しくは後援会の窓口までお問い合わせください。

【助成の要件】

(1) 講座修了証明書、または受講したことを確認できる書類

(2) 受講料の金額が記載された書類

(3) 領収書

受講料	助成上限額
1万円未満	3千円
1万円以上3万円未満	5千円
3万円以上5万円未満	8千円
5万円以上10万円未満	1万円
10万円以上20万円未満	2万円
20万円以上	3万円

《就職対策事業》

- 就職対策講座（公務員試験対策、就職活動実践等）の助成、資格取得及び講座受講等助成 他
- 就職セミナー・各学部による就職支援事業・在学生就職アドバイザー配置支援、TOEIC®IP学内試験への実施支援、福岡地区合同企業説明会参加助成、就職・進学写真代助成、保護者用就職ガイドブック作成配付

《学生活動支援事業》

- サークル活動費助成、白垂祭・PUK!リンピック開催経費助成、体育委員会主催サマーキャンプバス代助成、全国大会等出場助成 他
- 学生用カラーコピー機の設置、コピーカード配布・販売、食育支援（野菜スープ提供）、インフルエンザ予防接種費用助成 他
- 学生のリクエストに応じ図書を購入し図書館へ配置 他

《国際交流推進事業》

- 海外留学助成、留学対策講座助成、留学生による学生等向け語学講座開講支援 留学生危機管理サービス 加入助成 他

《教育研究推進事業・その他》

- 共同自主研究への助成、現地学習バス借上助成、インターゼミナール大会等への参加助成 他
- 卒業式のガウン貸与、記念品贈呈 他

※ 新入生へは、本学合格通知の際に、後援会の説明及び入会・会費納入のお願いをしております。まだ未入会の方は、充実した学生生活を送るためにも後援会事業をご理解いただき、是非ご加入ください。年次途中であっても随時入会を受け付けております。

活き活き元気種

このコーナーでは地域で活躍する熊本県立大生の声をお届けします。



PUKリンピック委員会メンバーで記念撮影

PUKリンピック委員会

PUKリンピック委員会委員長
常田理子（環境共生学部環境共生学科環境資源学専攻3年）

3年ぶりのPUKリンピック開催！

PUKリンピック委員会は、本学の大運動会である「PUKリンピック」の運営を行っています。令和4年9月現在、2年生12名、3年生10名の計22名で活動しており、新メンバー大募集中です！

今年度、3年ぶりにPUKリンピックを開催することができました。新型コロナウイルスの影響で、本学の大イベントであるPUKリンピックが2年連続で中止となってしまう、委員会ではどうにか開催できないか試行錯誤し、検討を重ねました。現在の委員会メンバーはPUKリンピックを経験したことがなく、始めは右も左も分からない状況でしたが、これを良いきっかけとして、先輩方が残して下さったPUKリンピックの歴史を継承しつつ、私たちが新しく新たなスタートを切ろうと決心しました。

コロナ禍で、近年大学の行事は中止またはオンライン形式がほとんどで、大学生活ならではの行事を経験できていない学生がほとんどでした。そのため、今年は新入生だけでなく、学部1～3年生全員が、サークル所属の有無に関係なく参加できるよう企画しました。また、大学と相談を重ね、「PUKリンピックにおける感染対策ガイドライン」を作成し、参加者の安全を第一に考えました。例年通りの小峯グラウンド開催で、使用面積を大幅に増やし人数制限を設け、1日を午前の部・午後の部にする事で多くの参加者を募集することができました。広い空間を活用し、チームを3つに分割し密集を避けつつ全員がゲームに参加できるよう計画しました。今年度行った企画は、県大〇×ゲーム、じゃんけん陣取り、ジェスチャーゲーム、障害物競争、団体抗リレー、抽選会です。各団長をはじめ参加者の3年生がチームを盛り上げる姿や、1、2年生の澆刺とした競技に取り組む姿が見られ活気に溢れた空間となりました。

コロナ禍を考慮した中でのPUKリンピック開催は初の試みでしたが、このような状況下だからこそ、参加して下さる方にとって今しかないかけがえのない仲間と過ごす大学生活に、思い出に残る1日を過ごしてほしい。そんな思いを込めて開催を決めました。

コロナ禍で、思うような活動ができず、様々な壁にぶつかりながらではありましたが、無事PUKリンピックを成功させることができました。PUKリンピック開催にあたりご支援・ご協力くださいました協賛企業様、関係者各位、ご理解頂いた近隣の皆様、大学、そしてご参加頂いた皆様には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

今後も冬のイベント、そして来年のPUKリンピックもより一層盛り上げていけるよう精一杯活動して参ります。皆様、沢山のご参加心よりお待ちしております！



参加者全員での記念撮影



団体対抗リレー

がん生還者たちー病から生まれ出づるものー

柳原和子 著

2020年初頭以降のCOVID-19感染拡大は、今なお、私達の心身の健康や生活に大きな影響を与えています。

今回、ノンフィクション作家であった著者が、がん患者として書いた『がん生還者たち-病から生まれ出づるもの-』をご紹介します。著者は、がん発症後の2000年に『がん患者学』、2002年に推薦本の発刊など、病に負けず精力的に執筆活動を続けました。この原動力は何だったのでしょうか？

私は、「人生最期の瞬間まで生きぬく大切さ」を伝える強い意志ではないかと考えます。複数の事例を用いて、病と共に生きる意味や、自らの役割を他者とのかわりの中で見出す姿を率直に描き、悲しく厳しい状況も避けて描写しています。

今や生活習慣病とも言われている「がん」や感染症など、誰しも罹患し、様々な苦しみや悲しみを体験する可能性があります。この厳しい状況の時こそ、今在る状況の意味や価値を見出すことで、前進への一歩となるのではないかと思います。

この本が、皆様の「一歩」のきっかけとなりましたら大変光栄に思います。

出版社：中央公論新社 出版年：2002年
ISBN-13：978-4120032936



総合管理学部
総合管理学科
教授
中尾 富士子

熊本県立大学未来基金への御協力に心より御礼申し上げます。

未来基金寄附者御芳名 (令和3年度実績)

個人:5件、法人・団体等:3件、古本募金:14件

(※寄附金額別、五十音順、敬称略)

1 個人

※お名前のみ掲載 黒木 誉之、中村 学
※お名前・金額の掲載を希望されなかった方 3件

2 法人・団体等

200万円 熊本県立大学同窓会紫苑会(令和3年度分として)

30万円 櫻井精技株式会社

※お名前・金額の掲載を希望されなかった法人 1件

3 古本募金(件数のみ記載)

14件

未来基金活用実績 (令和3年度実績)

学生支援	西部電気工業奨学金	1,920,000円
	同窓会紫苑会奨学金	2,800,000円
海外留学支援	小辻梅子奨学金	75,000円
CPDホールのWEB配信設備の整備 (音響映像関連機器等:配信映像確認モニター、WEBカメラ、集音マイクロフォン、WEB配信用PC等)		2,332,000円

基金創設(平成21年9月)以来の寄附金総額は、140,224,795円となりました。(※受取利息は含まない。)

熊本県立大学未来基金の御案内

熊本県立大学では、教育・研究環境の充実を図り、地域社会で活躍する有為な人材の育成及び研究成果の地域への還元等に資することを目的として、「熊本県立大学未来基金」を設置しています。

ぜひ本基金の趣旨に御賛同いただき、皆様からの幅広い御

支援をお願いいたします。

金融機関でのお振込のほか、インターネットからの御寄附にも対応しています。

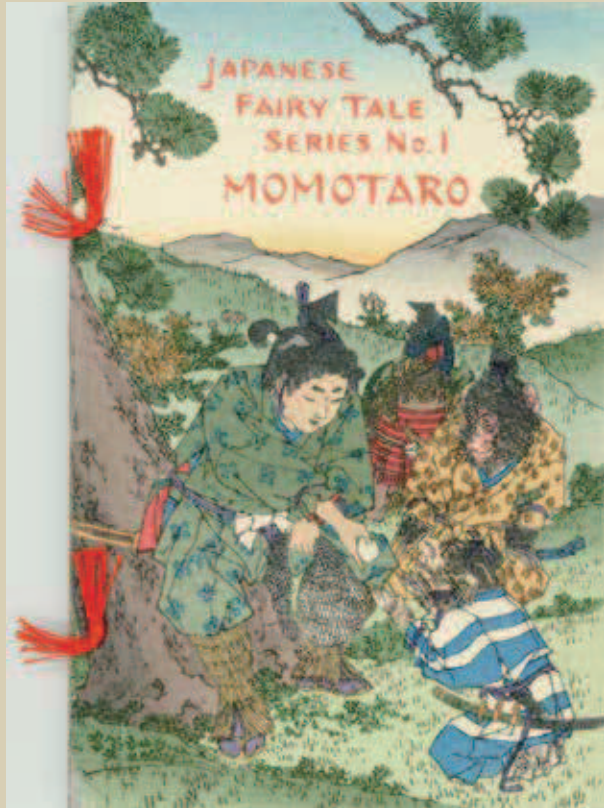
なお、本学への御寄附に対しては、所得税法、法人税法による税制上の優遇措置が設けられております。

詳細は大学ホームページよりご確認ください。
<https://www.pu-kumamoto.ac.jp/about/donation/>





1885年英語初版



1940年英語第18版

ダビッド・タムソン訳述『Momotaro』ちりめん本英語版 1885年初版、1940年第18版

国際日本文化研究センターHPの「ちりめん本データベース」の解説によれば、ちりめん本（縮緬本）は、和紙に印刷した後に、絞って加工し和本に仕立てたもので、柔らかい手触りと絹の縮緬布に似た風合いからこのように呼ばれている。明治期に来日した外国人の帰国の際のお土産用に作られ始め、人気を博した結果、日本の文化を外国に紹介する役割を果たすこととなった。

ちりめん本の嚆矢は、長谷川武次郎が手掛けた「日本昔噺シリーズ」20巻21冊であり、その第1巻が明治18年（1885）に上梓された『Momotaro』（桃太郎）であった。このシリーズは好評につき、

（参考URL：<https://shinku.nichibun.ac.jp/chirimen/summary.php?disp=JP>、2022年9月7日取得）

昭和中期まで版を重ねるとともに、英語版以外にドイツ語版、フランス語版、スペイン語版、オランダ語版、そしてポルトガル語版も刊行された。

左図は『Momotaro』英語初版。右図は昭和15年（1940）の英語第18版。標題の書体に髭文字（Fraktur）を採用し、人物・動物の姿勢に江戸時代の風情を残す古典的な装いの初版に比べると、第18版の表紙絵は現代的に見えるが、その構図はちりめん仕立てにせず印行した、いわゆる平紙本（1885）と同一である。第18版が当世風なのは、とりわけ彩色である。

解説：文学部 教授 大島明秀

「春秋彩」へのご意見・ご感想をお待ちしています。

本誌についてのご意見・ご感想を下記までお寄せください。
いただいたご意見は、今後の広報誌編集の参考にさせていただきます。
〒862-8502（住所記載不要）
熊本県立大学企画調整室「春秋彩」担当行
FAX 096-384-6765 E-mail kikaku@pu-kumamoto.ac.jp

発行：熊本県立大学

〒862-8502 熊本市東区月出3丁目1番100号
TEL 096 (383) 2929 (代)
<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/>